



見えない空気を可視化する

～コモンズとしての空気と匂い～

実施計画書 for CCBT Art Incubation Program '24-'25

上田麻希

ver. 25.7.19.

SUMMARY

Olfacto-Politics

嗅覚の力学

-The Air as a Medium -

～メディウムとしての空気～

生きることは、空気を分かち合うこと。
見えないけど感じられる匂いが
そこにある私たちの関係を問い直す。

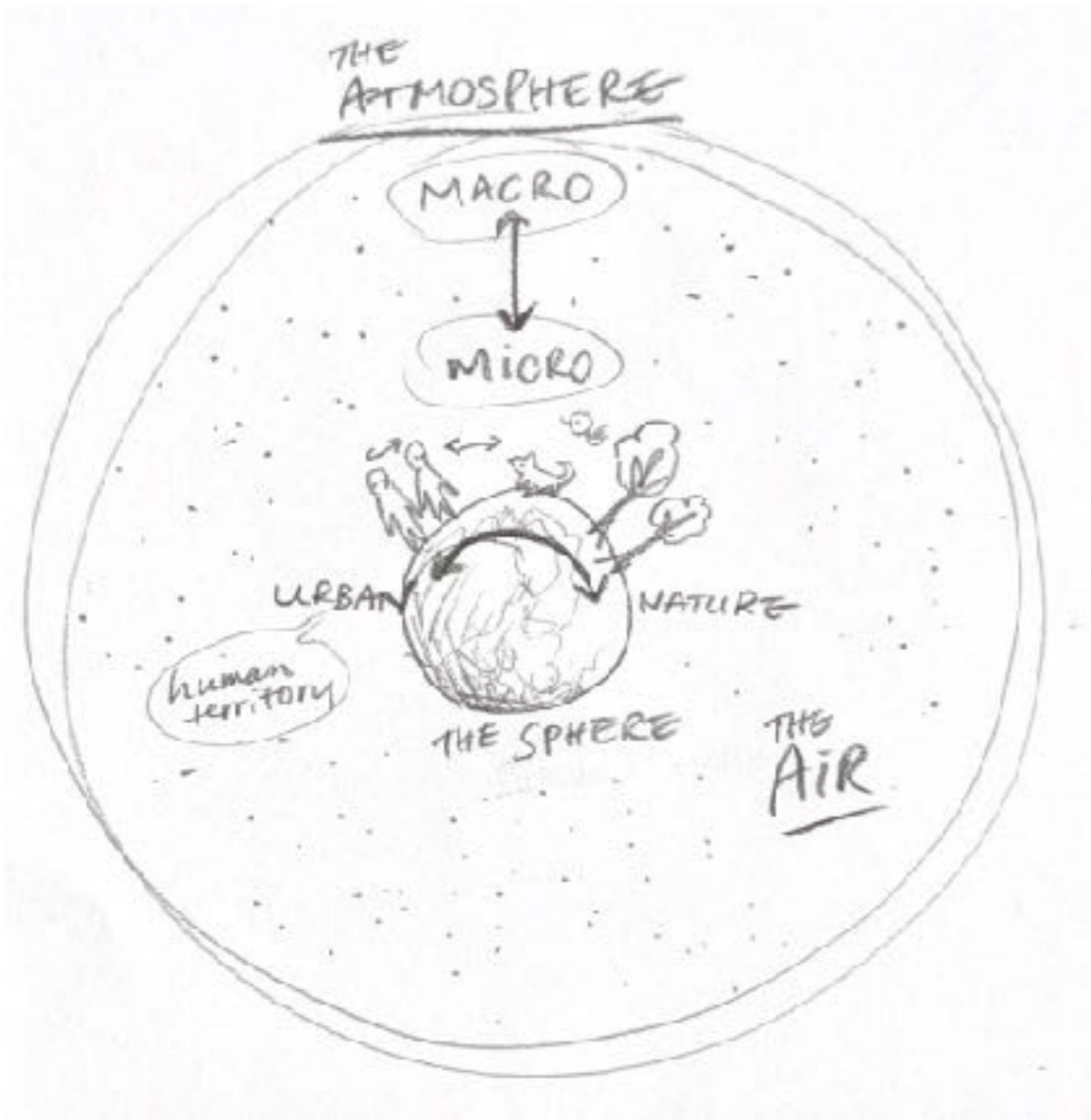
To live is to share the air.

We do not see it, but we breathe it.

Smell connects us — and reveals our relationships.

本企画は、都市における空気の存在をコモンズ(共有資源)として再発見し、気候変動・都市公害・共生などの社会課題を嗅覚という非視覚的感覚を通して可視化・体験・共有するものである。嗅覚をめぐる社会的力学や権力構造などの隠れたポリティクスを暴いていく。

教育・リサーチ・表現の3つのプロジェクトを段階的に接続することで、空気という「見えないコモンズ」に対する市民の理解と行動を促し、この不確定な時代を生きる（息る）ための嗅覚的レジリエンスを養う場となることを目指す。



プロジェクト名	内容	目的	全体との接続
#1 嗅覚教育	SMELL LAB	嗅覚リテラシーの向上と参加型の知識共有	土台の教育と市民参画。リサーチや展示の“担い手”を育てる
#2 リサーチ	テクノロジーによる空気の可視化	空気の質・匂い・生物的反応をリサーチし、可視化	空気の情報を“データ”として読み解く基盤をつくる
#3 表現	体験型展示	共生のための嗅覚体験や空気の循環性をインスタレーションで体験化	問題意識や科学的知見を“感覚的・身体的体験”に落とし込む

作家紹介

上田麻希



嗅覚アーティスト

東京生まれ。2000年よりオランダ在住。2015年より石垣島に嗅覚アート研究所を構える。

アートと嗅覚の融合を試みる、嗅覚アーティスト。世界的に新しいアートとして注目を集めている。wikipediaの「嗅覚アート」[“olfactory art”](#)の項にも先駆者としての一人として名を連ねる。

文脈や内容を強調するために匂いを使うのではなく、あくまでも「嗅覚」に焦点を置き、説明不要な体験を創出する。

ヴィラ・ロット・ミュージアム（ドイツ）、ミュゼ・デ・ラ・メ・ローザンヌ（スイス）、シンガポール国立美術館SAM、台湾国立現代美術館、リード大学（米国）などで展示。2018年、清須市はるひ美術館にて全館を使った大規模個展を行う。

慶應義塾大学環境情報学部（学士1997、修士1999）にて、藤幡正樹氏に師事し、メディア・アートを学ぶ。2000年文化庁在外研修として、2007年ポーラ財団在外研修として、オランダ&ベルギーに滞在。2009年よりオランダ王立美術学校・音楽院の学部間学科ArtScience や、

ロッテルダム美術大学ウィレム・デ・クーニング・アカデミー、岐阜県立情報科学芸術大学院大学などにて教鞭をとる。世界初の体系的な嗅覚アートの授業として知られ、多くの嗅覚アーティストを輩出。国内では独自の通信講座やオンライン講座を開講し、教育普及に励む。仏グラス・インスティテュート・オブ・パフューマリー(GIP)サマーコース修了。

世界的な嗅覚アートの殿堂、アート・アンド・オルファクション・アワード エキスペリメンタル・カテゴリーに5回連続ノミネート。2022年には最優秀賞を受賞。2024年、令和6年度文化庁長官表彰。作家名を「MAKI UEDA」から本名の「上田麻希」に改める。

[ウィキペディア:「上田麻希」](#)

[オンライン・ポートフォリオ: www.ueda.nl](#)

[オンライン CV](#)

[アトリエとオンライン・アカデミー: www.pepe.okinawa](#)

Instagram: @makiueda

受賞歴

2009年、ワールド・テクノロジー・アワード（アート・カテゴリー）ノミネート

2016年、第3回アート・アンド・オルファクション賞 ファイナリスト

2018年、第5回アート・アンド・オルファクション賞 ファイナリスト

2019年、第6回アート・アンド・オルファクション賞 ファイナリスト

2020年、第7回アート・アンド・オルファクション賞 ファイナリスト

2022年、第8回アート・アンド・オルファクション賞 最優秀賞

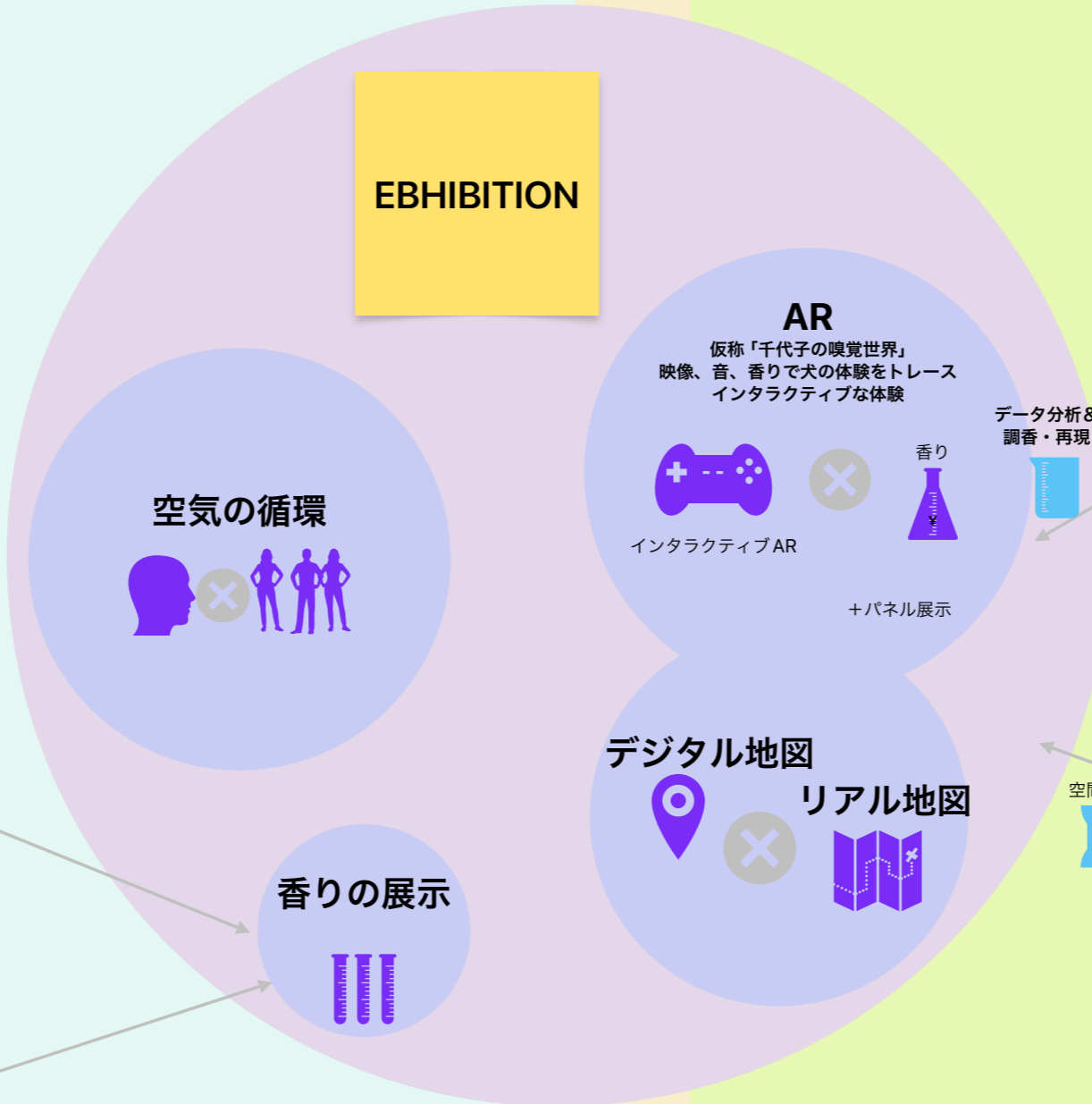
2023年、第9回アート・アンド・オルファクション賞 ファイナリスト

2024年、令和6年度文化庁長官表彰

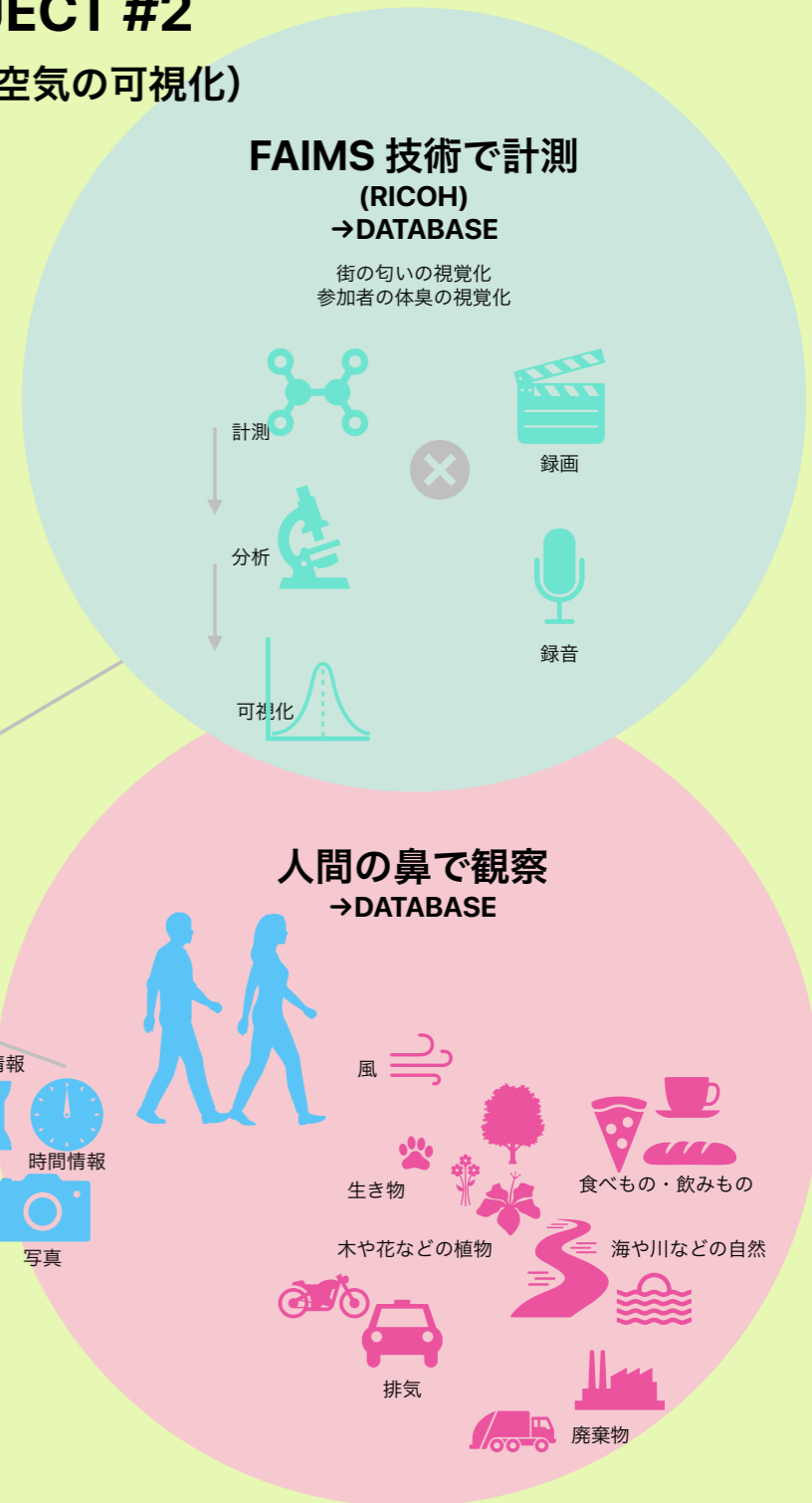
PROJECT #1 嗅覚教育 (SMELL LAB)



PROJECT #3 表現 (体験型展示)



PROJECT #2 リサーチ (空気の可視化)



見えない空気を可視化する
～ commonsとしての空気と匂い～

PROJECT #1:

嗅覚教育

SMELL LAB

視覚・聴覚については美術・音楽を通してあるていどの教育を受ける機会はあるが、嗅覚教育を受ける機会はない。嗅覚に関する知識のボトムアップを狙うのが「SMELL LAB」プロジェクトである。

参加資格：

- ・ 8月後半に募集をかけ、参加表明した人のみが参加できる。想定15名ていど。（TV取材が入る可能性があるため、顔出しOKの人のみ対象。）

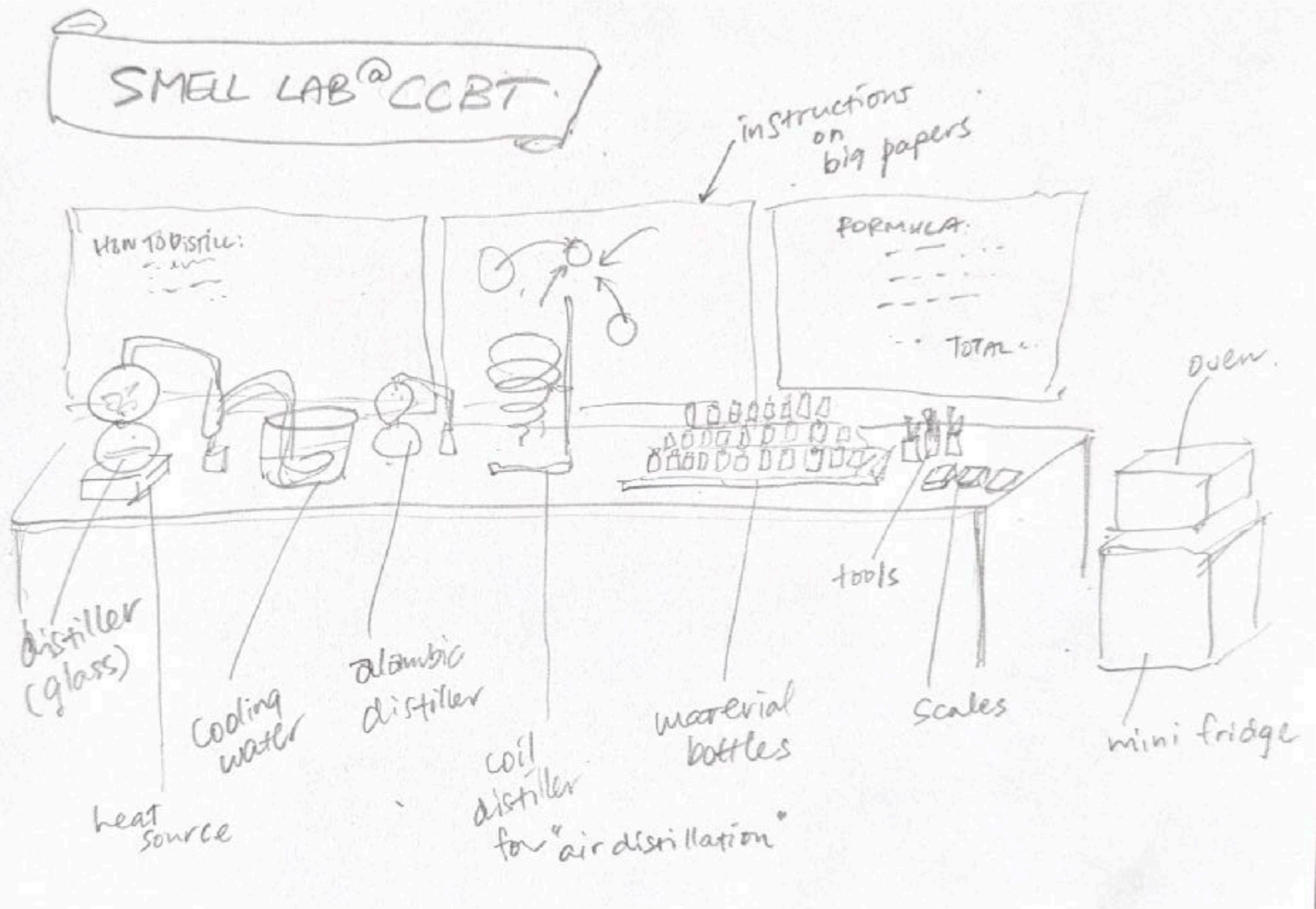
- ・ 限定する理由：

- ・ 匂いの扱いや機器操作における安全意識の共有のため。
- ・ 表面的な知識技術の伝授ではなく、作品制作・成果発表まで積極的に携わってもらい、作家の知識・経験を深いレベルで共有するため。
- ・ 一方で、一連のプロセスはできる限りアーカイブ、オンタイムでSNSに公開する。
- ・ 募集要項と応募フォーマットは[CCBTの他類似プロジェクト参考](#)
- ・ 応募者多数の場合は志望動機から選抜。

場所:

CCBT奥の空間を占有し、**SMELL LAB** 拠点としたい（9月～。新居においては相談）。ここには作業しやすいように理化学機器やガラス瓶・香料類・ツールを常時陳列したい。一般公開可、常時見学可。ただし、実際に扱うのはメンバーに限る。

交流・連絡手段：Discord



SMELL LAB 内容

① Meet Up

共に学び、議論し、発想する場。3人ほどのグループを5班作り、グループワークにより他者とのコミュニケーションを介して自分の嗅覚を認識する。

内容：

- ・身近な問いかけ：
 - ・ 味と匂いはどう違うのか？（オルソネーザルとレトロネーザルについて）
 - ・ どうしてじぶんの匂いはよくわからないのか？どうして人の家に行くと最初だけ匂いがするの？（嗅覚疲労、嗅盲について）
 - ・ あなたと私でどう匂いの捉え方が違うのか？（個人バイアスについて）
 - ・ 匂いと記憶の関係（プルースト効果とは）
 - ・ 渋谷川はなぜ雨上がりに臭いのか（芳香性揮発物質の特徴とメカニズムについて）
- ・ ディスカッション & ブレスト
 - ・ 水を買っても空気は買えない→空気戦争はありうるか？
 - ・ 都市と嗅覚：公害→香害 今後どうあるべきか？
 - ・ 嗅覚によるレジリエンス：嗅覚をどう生かす？
- ・ 匂いと嗅覚についての勉強会
 - ・ 匂いと嗅覚の生理学的メカニズム
 - ・ 嗅覚の心理学的メカニズム
- ・ 匂いのランドスケープについての勉強会
 - ・ 江戸は、どのような匂いだったか？ 商売の香り。魚屋さんの香り。お茶屋さんの香り。肥やしの香り。
 - ・ 匂いのランドスケープはどのように変化したか。また戦後世界有数の悪臭の街だった東京がどのように改善していったか。
 - ・ 渋谷の匂い：渋谷ストリームを作るときに蓋を開けてしまったので、夏でも冬でも、雨が上がると臭くなった。都市と悪臭の関係性は？
- ・ 気候変動についての勉強会

- ・ 温室効果ガス、大気汚染などのグローバルコモンズ課題
- ・ 農業と食糧問題、窒素問題（窒素固定）、気候変動を連鎖の視点で捉えよう

② ワークショップ

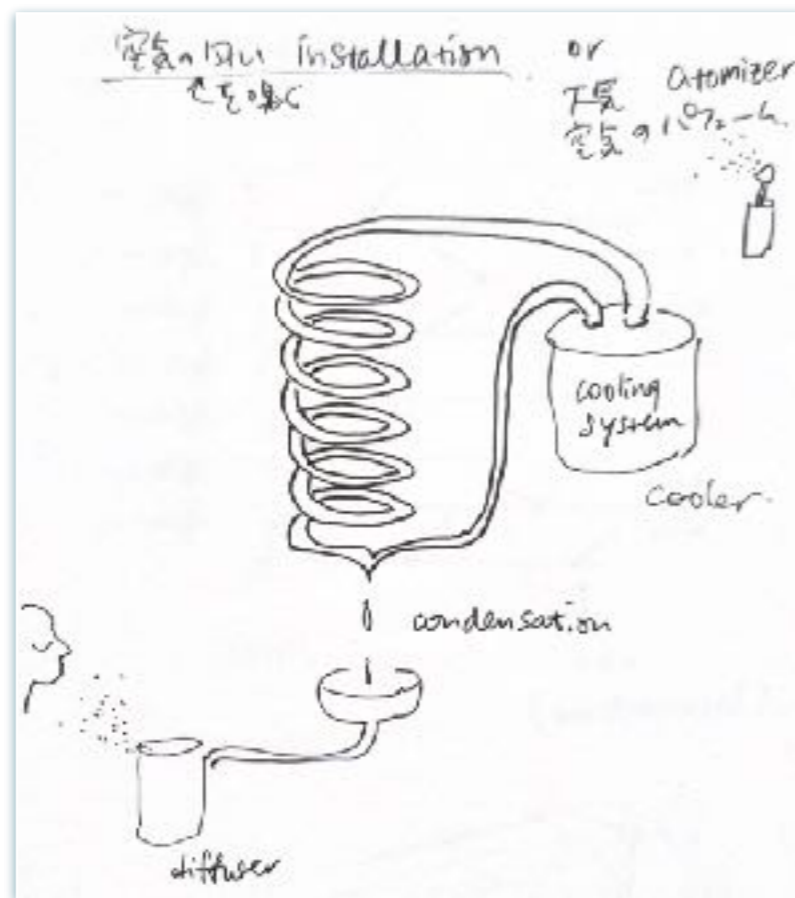
調香WS：温室効果ガスの匂いを調香する（二酸化窒素 & オゾン）

1. 化学と分子、揮発性芳香物質（成分）、そして香料（一般的にアロマといわれているもの）をマテリアルとして扱う。
2. 香りを具体的に言葉で表現する=共通言語としての香調表現を学び、他者とコミュニケーションできるようにする
3. 香りを抽象的に表現する（=調香）

③ [PROJECT #2 リサーチ]の部分にも参加可能

④[PROJECT #3 実験・制作・展示]においても積極的な関与が期待される。

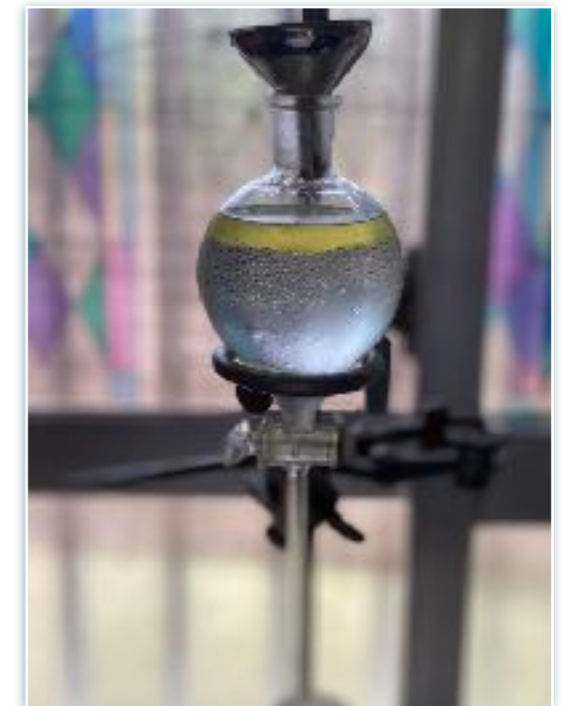
SMELL LAB イメージ図



空気の匂いをそのまま蒸留する装置を独自制作。



写真：上田によるオランダ王立美術アカデミーでの嗅覚アートの授業の写真。2009～2018年。



「空気の匂いの蒸留機」は自作予定。

公開講座

ゲストレクチャーによる公開講座（一般公開）

場所：CCBT

世界最先端の研究者を呼んでの嗅覚アートや嗅覚コミュニケーションに関するレクチャー知識関心のボトムアップを図る。

1. 「嗅覚に美学はあるか」（仮）

講師：岩崎陽子氏（内定）

嵯峨美術短期大学 教授

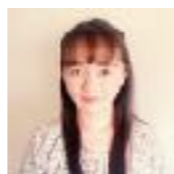
2002年 大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了 博士（文学）

専門はフランス美学、香道研究、香りの現代アート

「味と匂い研究会」主宰

Perfume Art Project代表 <http://perfumeartproject.com>

フランスの哲学者M.メルロ=ポンティの身体論から、芸術と身体的美学研究に取り組みはじめる。近年は特に嗅覚、匂い、アートについて実際に作品制作をするアーティストたちと共に実践研究を重ね、国際的な香りのアートの展覧会の企画、日仏学生交流、国内外での講演など多岐にわたる活動を展開。日本の伝統的芸道である香道にも深い関心をもつ。最近は特に香りと記憶の結びつきに注目し、高齢者にとってなつかしい匂いを使った快適空間をアート・デザインの中で生み出す研究をフランス、イギリス、スウェーデンの研究者たちと共におこなっている。



2. 「インフォケミカルとしての香り」（仮）

講師：東原和成氏（打診）

東京大学大学院 農学生命科学研究科 応用生命化学専攻 生物化学研究室 教授



1989年東京大学農学部農芸化学科卒業。1993年ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校化学科博士課程修了。Ph.D.。1993年デューク大学博士研究員、1995年東京大学医学部助手、1998年神戸大学助手、1999年東京大学大学院新領域創成科学研究科助教授を経て、2009年より東京大学大学院農学生命科学研究科教授。2012-2017年ERATO東原化学感覚シグナルプロジェクト研究総括兼任。匂いやフェロモンを感じる仕組みについて研究。共著書に「においと味わいの不思議」「ワインの香り」。文部科学大臣表彰若手科学者賞、日本学士院学術奨励賞、読売ゴールドメダル、国際Wright賞など。

3 仮題「気候変動・都市公害とデジタル嗅覚」

講師：（株）リコー 氏本勝也

FAIMS計測データをもとに、東京の「見えない空気を見る」

レクチャー+ワークショップ。計測データと東京の地形や空間特性を照らし合わせながら、東京の空気質を考察する、「見えない空気を見る」ためのディスカッション中心のワークショップ。例えば前出の東京湾岸地域計測データからは、特にトンネルの出口と入口に濃い信号が検出され、地下トンネルの多い東京の特徴が読み取れる。特に温室効果ガス、PM2.5やその前駆物質、硫化水素などの公害指定物質など、社会課題となっている commons に焦点を当てる。

公開講座 本番行程案

時間はLAP表記

- 00:00-00:30 登壇者会場入り、流れの共有
- 00:30-01:00 登壇者用のPCの投影機材・音声チェック
- 01:00-01:10 オープニング、コンテクスチャライジング（上田）
- 01:10-02:00 登壇者のプレゼン
- 02:00-02:30 Q&A→クロージング
- 02:30-03:00 カジュアルな交流タイム
- 03:00 閉場

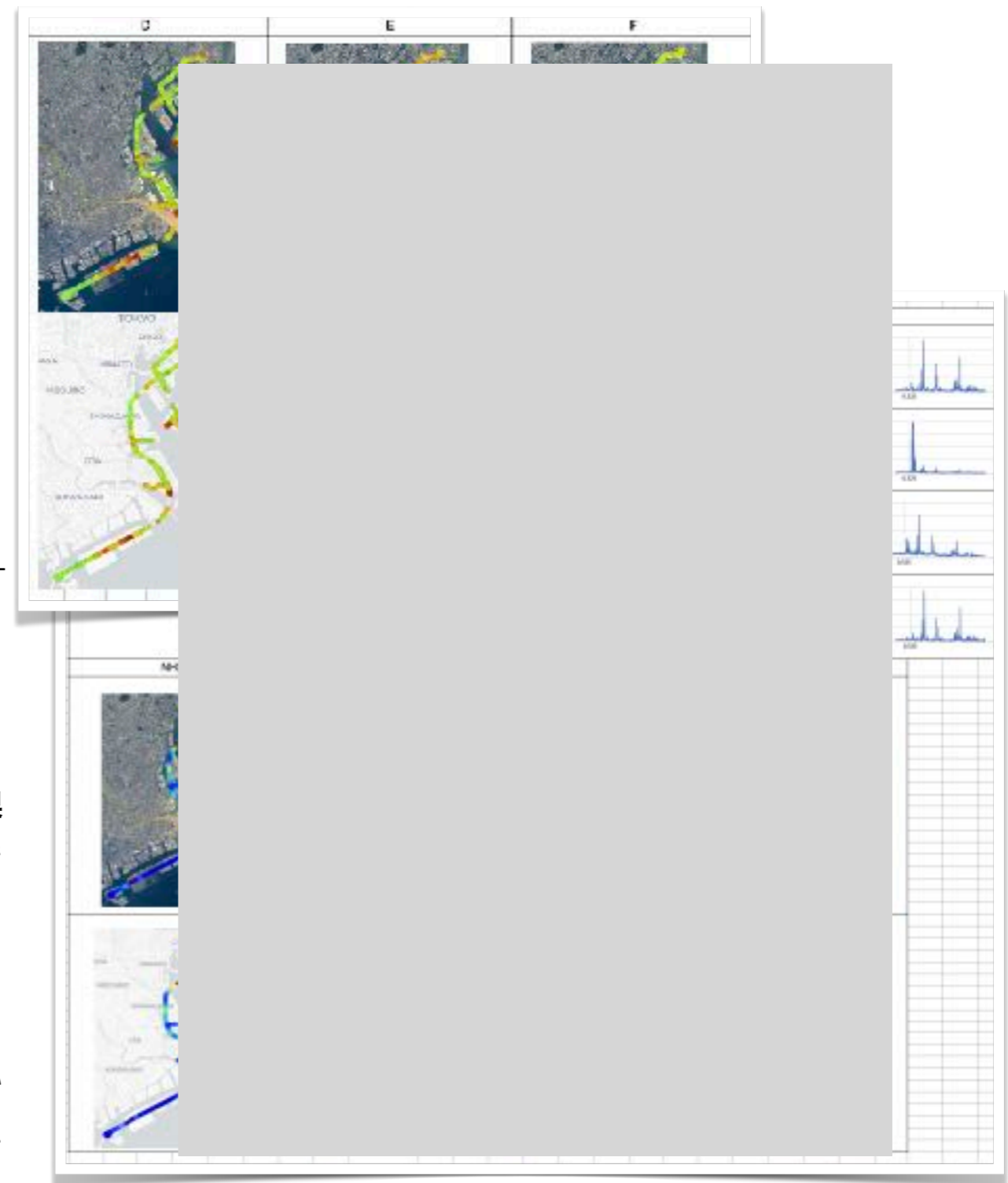
PROJECT #2:

リサーチ

空気の可視化

人間の嗅覚は、個人差の大きい主観の感覚である。年齢・性別・健康状態・経験などにより大きく左右され、先入観によるバイアスもかかりやすい。同じ匂いを持続して認識できないなど、「嗅覚疲労」あるいは「嗅盲」などの問題もある。そこにデジタル技術を使う利点がある。

デジタル嗅覚(e-NOSE)は近年、目覚ましい発展を遂げている。半導体式、MMS膜型表面応力センサー、水晶振動子式、FETバイオセンサー、脳波などさまざまなメカニズムのものが開発されている。それぞれの特徴があり、得意不得意がある。当プロジェクトに適していると考えられるのは、大気質計測が得意なイオン移動度スペクトロメータである。



FAIMS による東京湾岸地域の空気質の計測結果。この図から読めるのは、地下トンネルの入口と出口の空気質の信号が濃いということ。特に地下トンネルが多い東京ならではの特徴。提供：リコー社。

イオン移動度スペクトロメータについて

英語：Field Asymmetric Ion Mobility Spectrometry (FAIMS)

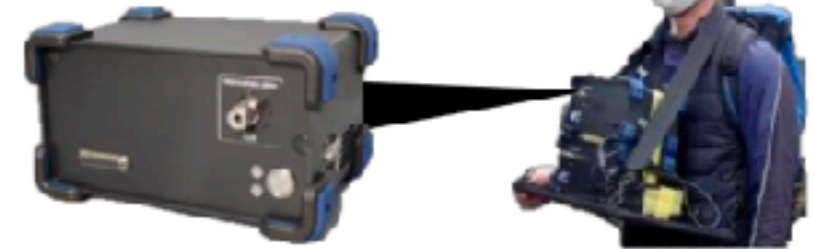
リコー社のデジタル嗅覚、FAIMS は、イオンの移動度の電界強度依存性を利用して分子をふるい分ける技術を応用。空気中の化合物や微量気体全てをまるごとイオンで信号化するものである。リアルタイム計測かつポータブルという強みがある。またリコー社独自の360°カメラ・4方向マイクにより、オーディオビジュアルの環境的なレコーディングも並行可能。（作家自身とも2022-2023年に別件でコラボしており、今回の協力に関しても打診済み。）



技術の特徴

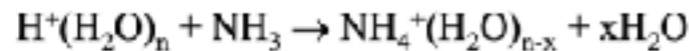
- 分子によってはppbオーダーの低濃度まで計測できる
- 1台で化学特性の異なる複合ガスが計測できる
- ポータブルかつリアルタイムで計測できる

高さ 120 mm
幅 220 mm
奥行 160 mm
重さ 3 kg

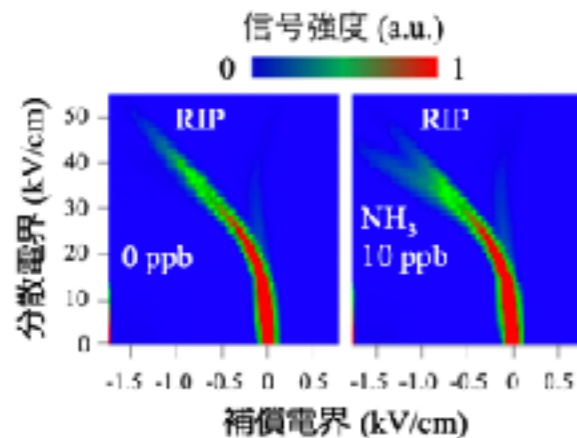


NH₃の測定 @相対湿度41%, 室温 (絶対湿度8.5 g/m³)

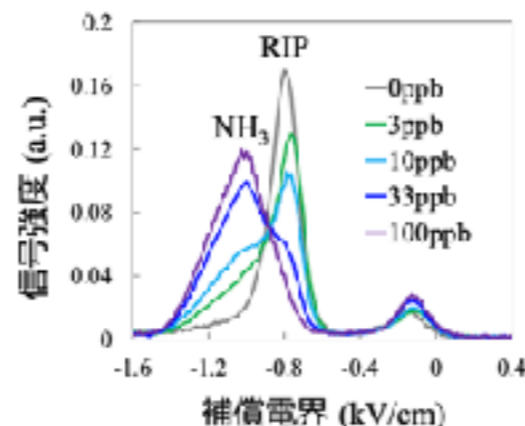
0 ppbではH⁺(H₂O)_nに由来すると考えられる反応イオン(RIP)が支配的に現れた。NH₃濃度を増やすと、RIPよりも負側の補償電界でNH₃に由来するピークが現れて強度が増加し、RIPの強度は減少した。下記の陽子移動反応を反映した振る舞いと考えられる。



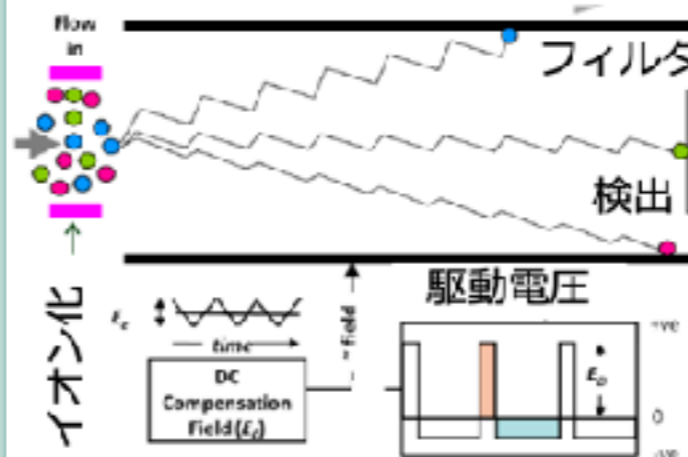
NH₃濃度0 ppbおよび10 ppbのFAIMSスペクトル(正イオンモード)



左図断面のNH₃濃度依存性 (分散電界33 kV/cm)

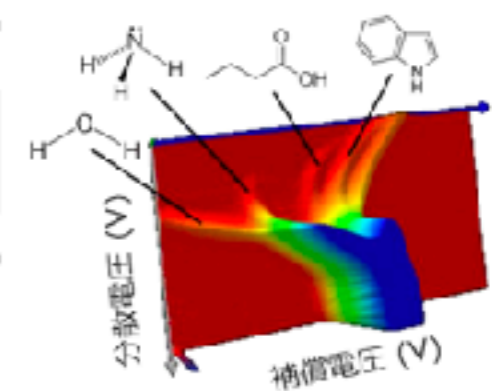


FAIMSの原理図



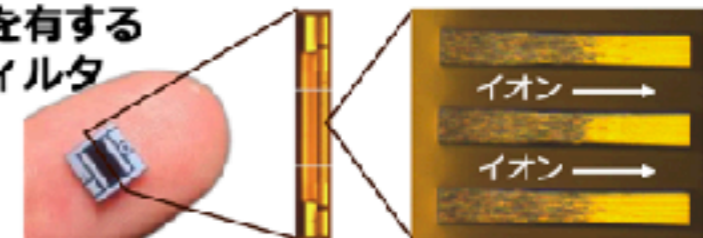
Int. J. Ion Mobil. Spec. (2012) 15:199

スペクトルの例



信号位置：定性情報
信号強度：定量情報

独自構造を有するイオンフィルタ



FAIMS計測内容（1）MICRO

テーマ： 嗅覚の力学 ～人間vs人間～

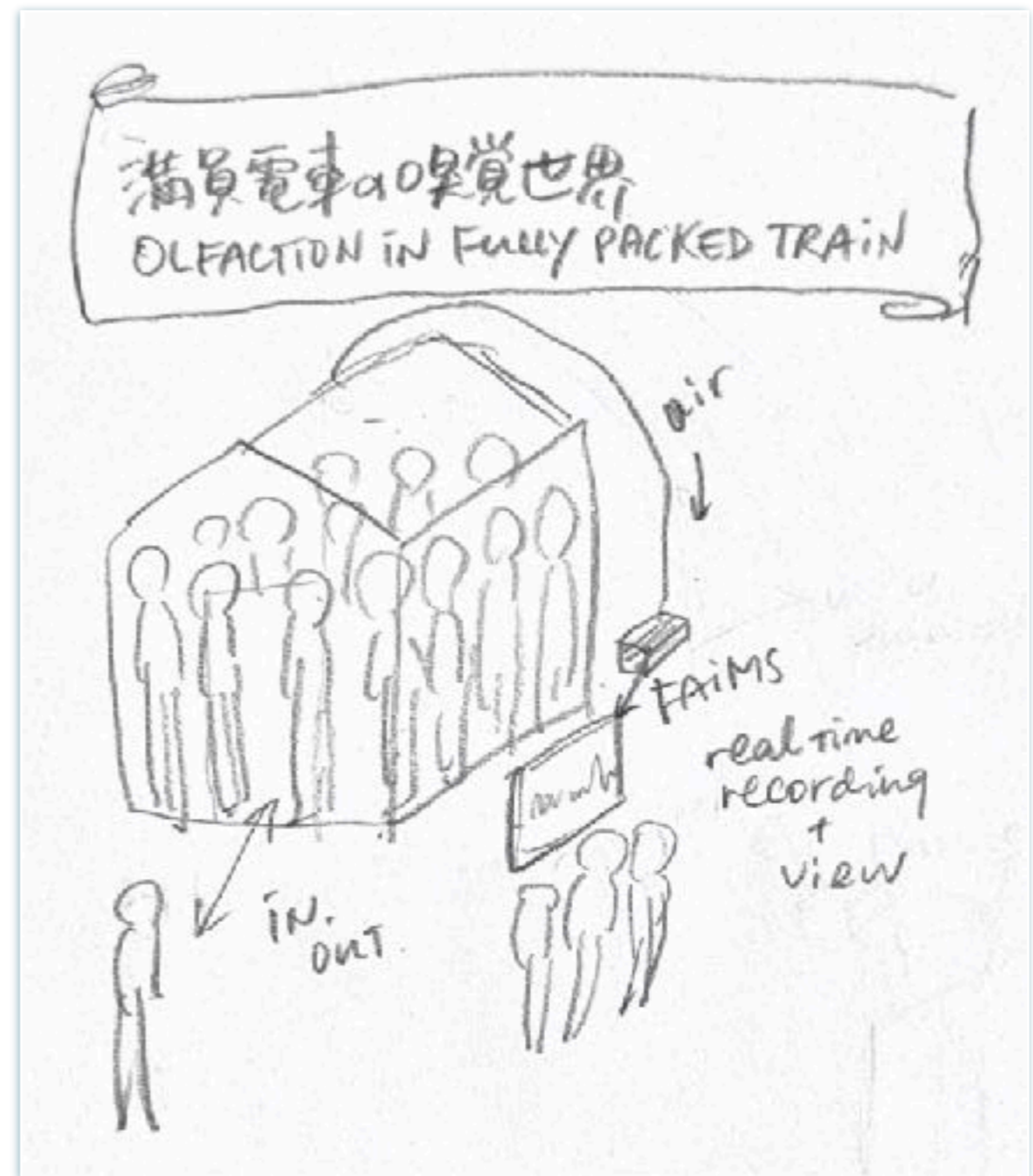
場所：CCBT？（未定）

対象者：SMELL LABメンバー

密閉空間でよく問題となるのは人の匂い。人体は、化学工場そのもの。人間により空間内の空気質が変化するが、自分の匂いは決して嗅げない。人間の嗅覚は、都合良く信号を「遮断」することができる。しかしデジタル嗅覚FAIMSはバイアスに左右されず、信号を検出できる。

観客自身の体臭を作品の「マテリアル」として利用し、「空気の汚染者」としての我々人間を客観視するリサーチ。具体的には擬似的な満員電車のような空間を作り、検出信号の積み重ねを観察する。都市の極限状態における嗅覚をリサーチ。

い。



FAIMS計測内容（2）MICRO

テーマ： 嗅覚の力学 ～人間vs犬～

場所： 都心・青山などの、犬連れ可能な公園

対象者： SMELL LABメンバーは見学・アシストすることができる。

この地球上の空気は、人間だけのものではない。生きとし生けるもので共有している。植物や動物は、人間と違い、生存とコミュニケーションのために匂いを使っている。人間以外の嗅覚世界を知る手がかりとして、犬に活躍してもらおう。（上田の犬・千代子を使用予定） commonsとしての空気における生物多様性やバイオームへの思考を巡らせる。



1 周目：人間の嗅覚世界

人間の鼻の高さで計測。人間は鼻で嗅いだ匂いをメモしながら歩く。→Google Mapへ書き込み。最終展示では拡大印刷した地図にPost-it.



2 周目：犬の嗅覚世界

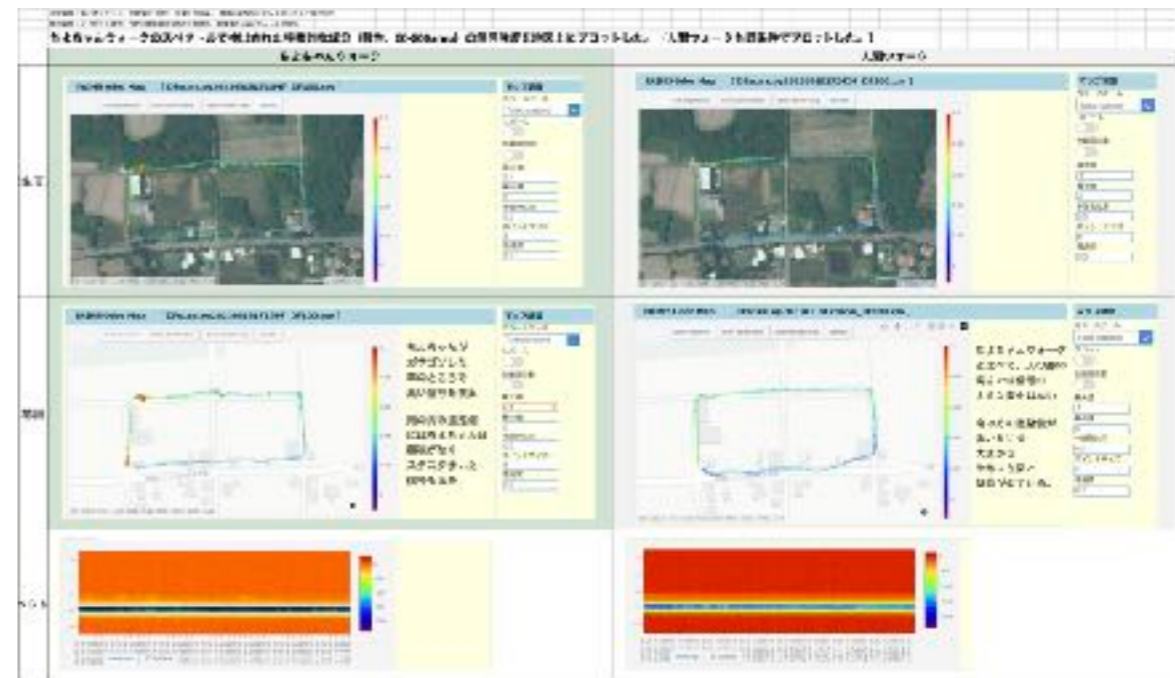
動物の鼻の高さで計測。同じルートを犬（作家の犬）と共に計測。人間だと特段気に留めることのないものにも、犬は反応す



る。地面や電信柱、草にはたくさんの匂いが付着している。



イメージ：作家が個人的に制作している、石垣島の2023年、石垣島にある作家のアトリエ周辺にてテストラン



2023年、石垣島でテストランしたときのデータ。左は犬の散歩、右は人間。犬が立ち止まり、草むらの中をガサゴソしたところでは高い信号が検出されていた、つまり犬の行動がデータと一致していることを映像・音・信号すべて記録した。AR再生にあたっては、高い信号のところでは香りを濃く出すようにプログラムする。テストランの動画：https://drive.google.com/file/d/1mPwl8RdfHJdlGDxDUyHqlXkjXRULlxzW/view?usp=drive_link

FAIMS計測内容（3）MACRO

テーマ： 嗅覚の力学 ～都市vs自然～

場所：

1箇所目：都市

産業・農業などの人間活動の盛んなエリア。案：湾岸部

2箇所目：自然

最も人間活動の少ないエリア。案：檜原村

対象者：場合によってはSMELL LABメンバーは見学・アシストすることができる。

車による広域の空気質計測。

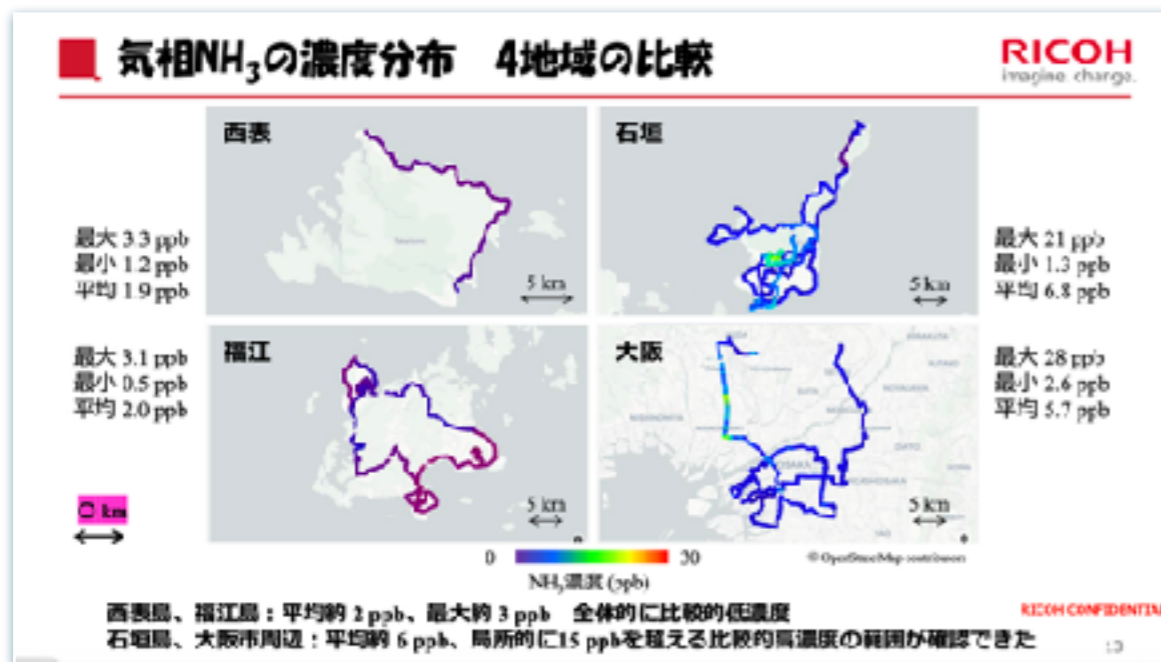
FAIMS計測データとの比較対象として、匂いを採取する。

FAIMS計測データ：科学

匂い：感性

(A) 空気→蒸留して匂いを採取→HSGC分析にかける

(B) 土→蒸留して匂いを採取



参考：石垣島と西表島で2023年5月に計測したもの。

	場所(案)	FAIMS 計測	(A)空気の蒸留	(B) 土の採取	→蒸留 @CCBT
都市	湾岸部	10/2	10/4	10/4	10/6
自然	檜原村	10/3	10/5	10/5	10/6

日程の案

参考: コモンズとしての空気における社会課題 (特にワークショップ③において検討)

コモンズとしての空気 - 社会問題の観点から -

分子式	日本語	特徴	① PM2.5との関係	② 温室効果ガス?	③FAIMS 計測実績	④東京都大気測定局によるリアルタイム測定
CO	一酸化炭素	<ul style="list-style-type: none"> 不完全燃焼で発生 有毒・無臭で感知しにくく、中毒死の危険あり 	間接的に関与 (大気中反応による二次粒子形成に影響)	✗ 温室効果ガスではない	✓	✓
CO ₂	二酸化炭素	<ul style="list-style-type: none"> 大気中濃度増加が地球温暖化の主因 呼吸や燃焼で発生。 	✗ 関与なし	✓ 主な温室効果ガス	✓	
CH ₄	メタン	<ul style="list-style-type: none"> 牛のげっぷ、湿地などから発生 分解過程でCO₂やオゾン生成に関与 強力な温室効果ガス 大阪万博工事現場の爆発原因 バミューダトライアングルの謎に関わる? 	✗ 関与なし	✓ CO ₂ の25倍の温室効果		✓
N ₂ O	一酸化二窒素	<ul style="list-style-type: none"> 強力な温室効果ガス。 笑気ガスとして使用。 農業由来が多い。 	間接的に関与 (大気化学反応の一部)	✓ CO ₂ の約300倍の温室効果		
HFCs	ハイドロフルオロカーボン	<ul style="list-style-type: none"> 人工的な温室効果ガス 冷媒や発泡剤などに使われる 	✗ 関与なし	✓ 強力な温室効果ガス (人工)		
NH ₃	アンモニア	<ul style="list-style-type: none"> 農業、動物の排せつ物から発生。 大気中で化学変化しやすく、PM2.5の元 	✓ SO ₂ ・NO _x と反応しPM2.5の主成分「二次粒子」生成	✗ 温室効果ガスではない	✓	
SO ₂	二酸化硫黄	<ul style="list-style-type: none"> 火山や化石燃料の燃焼で発生。 酸性雨の原因。 呼吸器へ影響 	✓ NH ₃ などと反応してPM2.5を形成 (硫酸塩粒子)	✗ 温室効果ガスではない	✓	✓
α-pinene	α-ピネン (アルファ・ピネン)	<ul style="list-style-type: none"> 森林の香り成分。 植物 (特に針葉樹) から発散される揮発性有機化合物 (VOC) VOCとして反応性が高い 	✓ 大気中で酸化されて「有機エアロゾル」 (PM2.5) を形成	✗ 温室効果ガスではない	✓	
NO ₂	二酸化窒素	<ul style="list-style-type: none"> 排ガスに多く含まれ、化学スモッグの原因。 ぜんそく等の原因物質 	✓ PM2.5の前駆物質。NH ₃ と反応し硝酸塩粒子に	✗ 温室効果ガスではない	✓	✓
H ₂ S	硫化水素	<ul style="list-style-type: none"> 腐った卵のような匂い。 下水などに発生。埼玉八潮の下水陥没事故の原因の一つ 都心ビル街で問題になっているピルピット臭気 火山や温泉地、工業過程から発生 毒性あり (特定の濃度から麻痺して嗅げなくなる) 福島の源泉地確認に行ったホテル従業員の死亡事故の原因 	関与は小さい (反応性はあるがPM形成には弱い)	✗ 温室効果ガスではない	✓	

PROJECT #3:

展示

前リサーチプロジェクトを引き継ぎ、多くの人と問いを共有するための体験型展示。

展示（1）嗅覚の力学～人間vs犬～

場所：CCBT

より多くの方（特に子供）が人間以外（犬）の嗅覚世界を体験できるような展示。

A: 大きな拡大地図上で匂いのトレースを嗅ぐ

・マイクロカプセル技術を応用。擦ると匂いが出るというもの。匂いの塗料を作り、それを地図に塗る。体験者は床をこすりながら、匂いをトレースする。



日本カプセルプロダクツ (株)

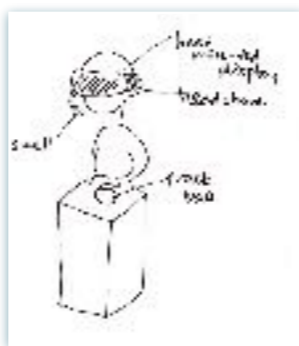
・香りは3種を想定（例：pee, meat, earth)

B: 映像・音・香りのAR体験

・トラックボールで前進→匂いと空間を360度映像・立体音つきで再生。ヘッドマウント・ディスプレイでAR体験。

・FAIMSデータに基づいた香りを再生するため、香り再生装置AROMA SHOOTER向けの独自プログラムを開発。

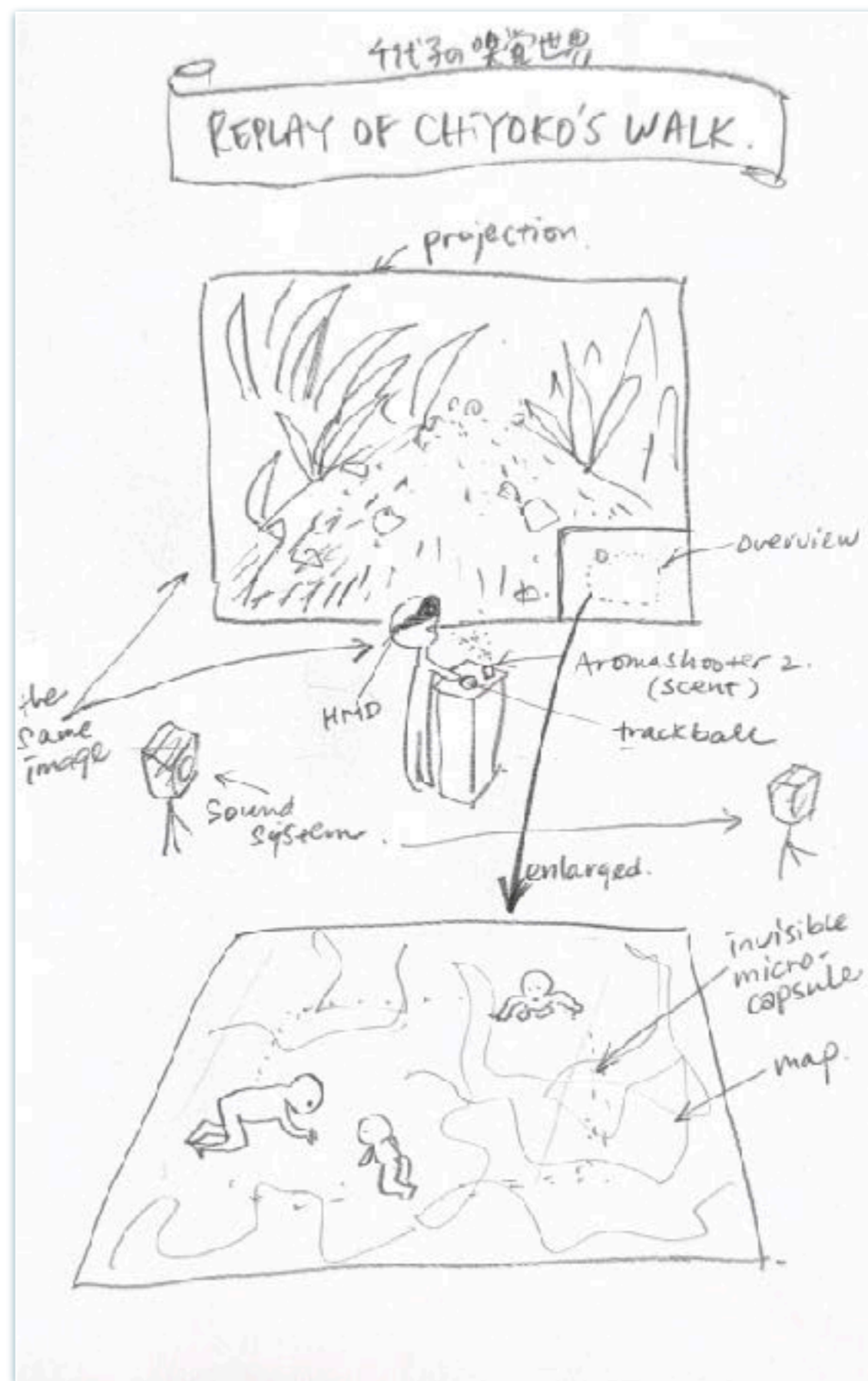
・香りは3種を想定（例：pee, meat, earth)



犬の五感をARで体験



AROMA JOIN 社
AROMA SHOOTER 2



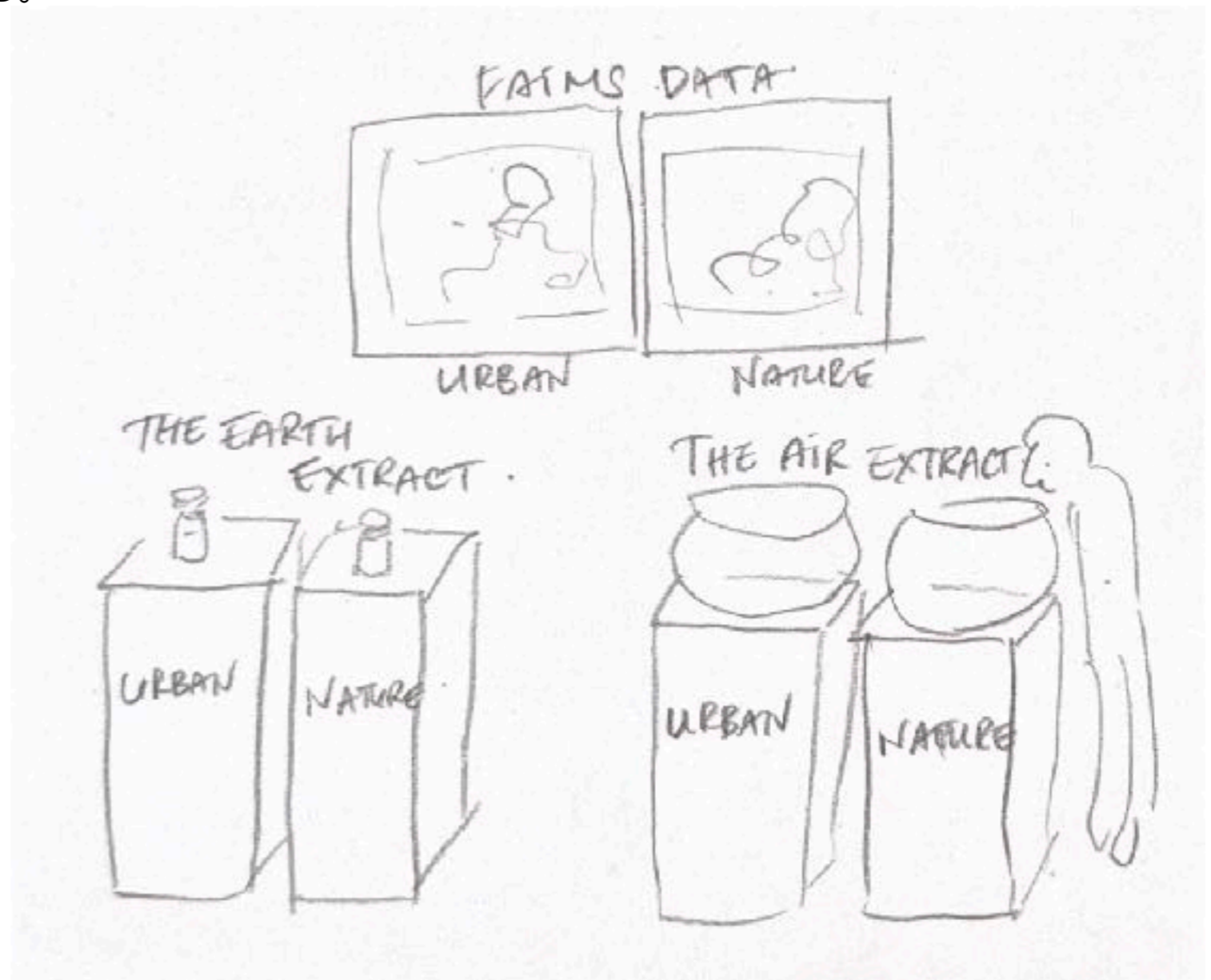
展示（２）嗅覚の力学～都市vs自然～

場所：CCBT

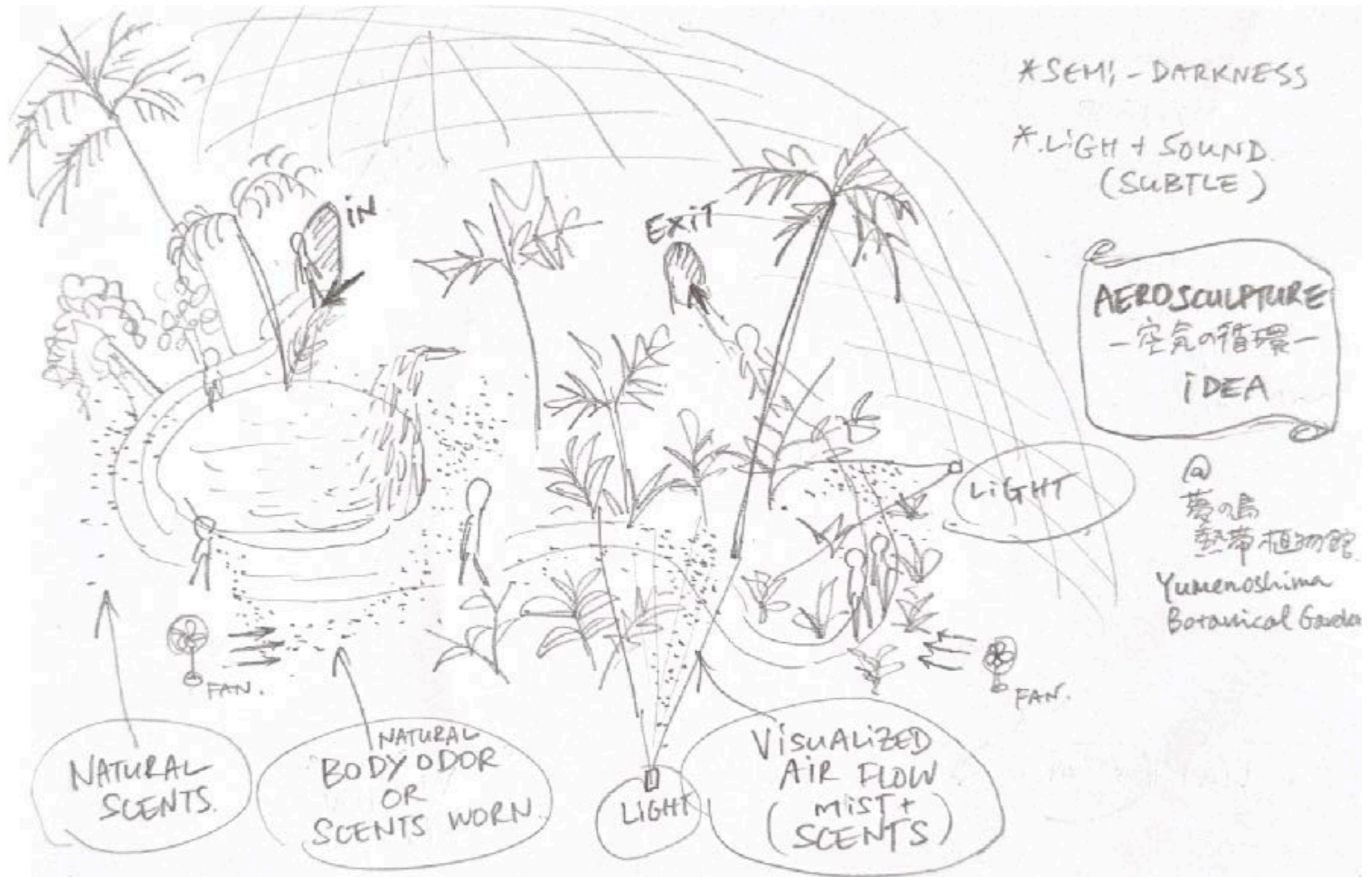
[PROJECT #2 リサーチ] の結果を展示

- ・ FAIMS DATA: 科学
- ・ 匂い：感性

観客は科学と感性の間を匂いで体験することができる。



展示 (3) 嗅覚の力学～バイオーム～



匂いをメタファーとして、**メディウムとしての空気とその循環**を表現する空間作品を、さまざまな実験をもとに制作する。擬似的な密閉嗅覚空間を温室で作り(SMELL LAB内)、その中で以下のような様々な実験をする。

1. 匂いをタンジブルに（物質化）する実験

密閉空間における空気の循環（揮発→結露）を視覚化し、嗅覚で体験できるような仕組みづくり。超音波霧状化装置やさまざまなスモーク装置（ドライアイス由来、お線香由来など）を用いる。

2. エアフローの可視化実験

クリーンルームライトやレーザー光などの技術を併用し、空気の流れ、風のサーキュレーションを可視化。ファンシステムにより空気の対流を起こす仕組みを導入。

3. 音や光による匂いの表現実験

(→森本洋太研究室とのコラボ)

4. 香水などの装着による人工的な信号によるコミュニケーション実験

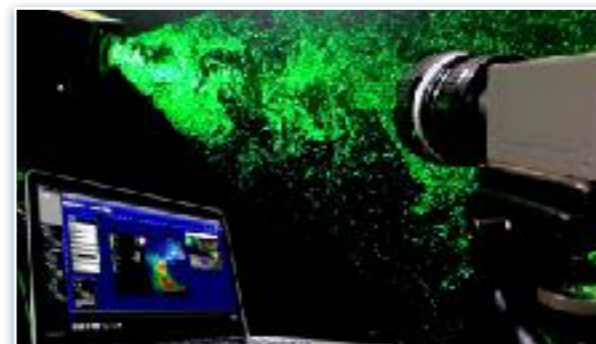
案：人VS人 信号としてのフレグランスを作る



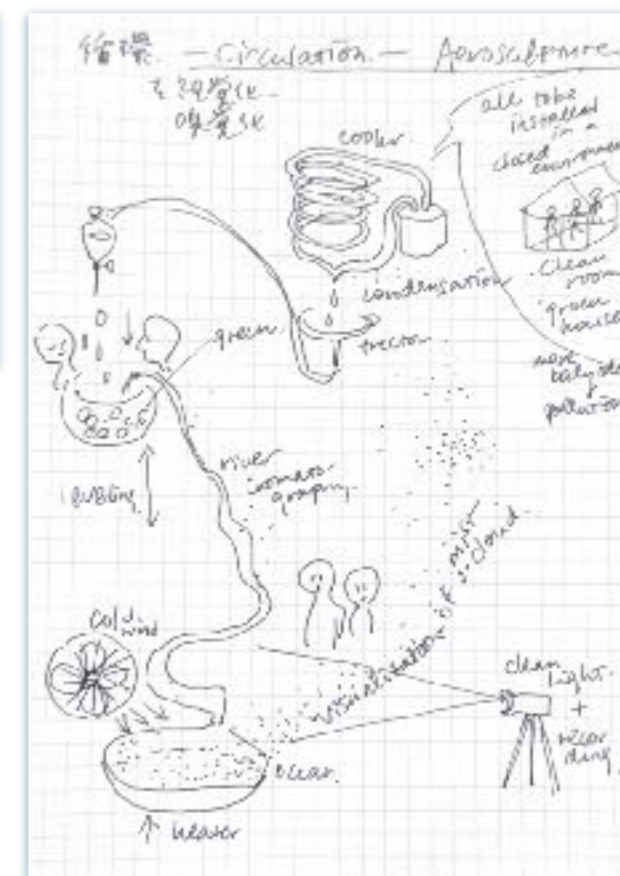
拙作 AEROSCUPTURE (2022)



密閉性の高い空間内でさまざまな実験をする



エアロゾルを視覚化する仕組み(カトウ光研)



循環メカニズム。これらの要素を温室の密閉空間の中に展開するイメージ。

超音波噴霧 (Ultrasonic atomization) は、超音波の音圧により液面に噴水状の液柱が発生し、液柱の側面からおもに数ミクロン程度の微細な液滴（ミスト）が発生するもの。

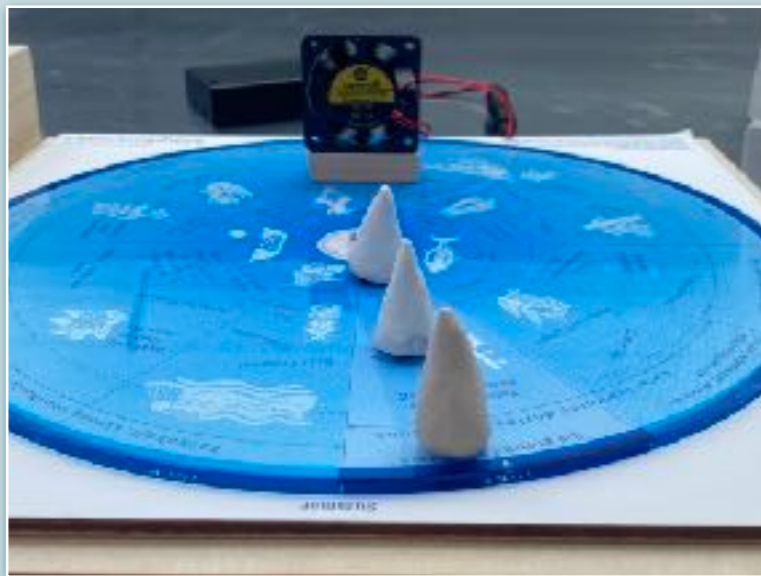


気流を可視化するクリーンルームライト(CSC)

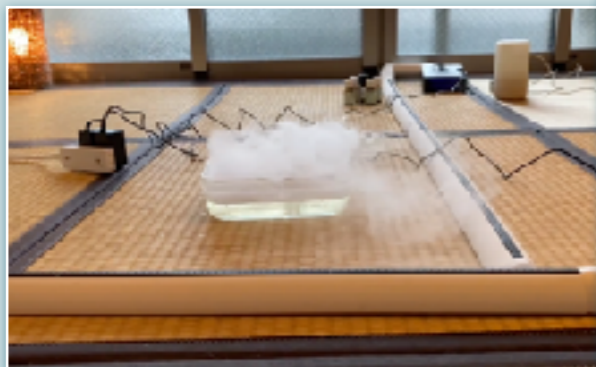
参考：過去作品においておこなったエアフローの可視化実験



拙作 AEROSCUPTURE (2022)





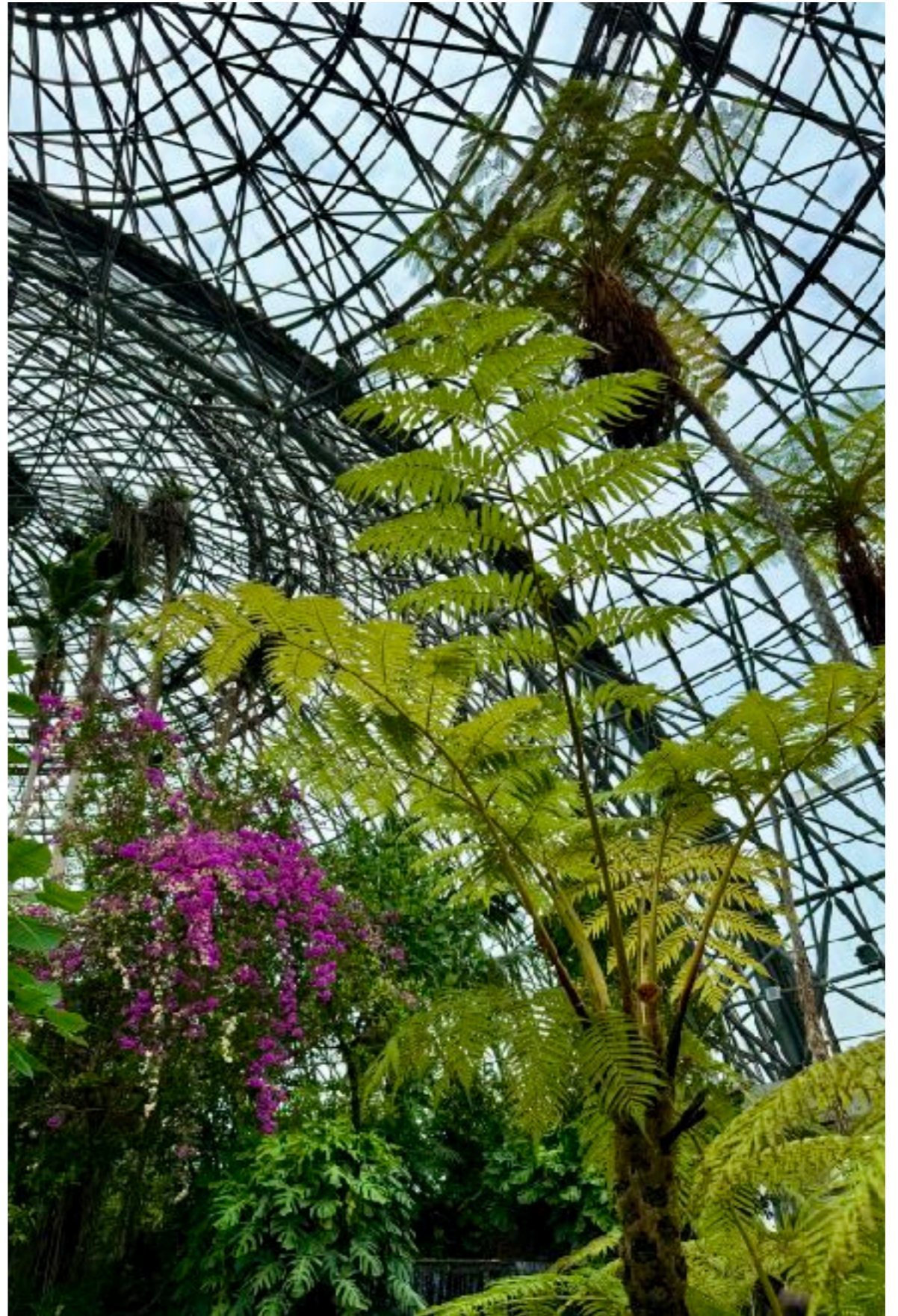
REMINI-SCENT (2023)

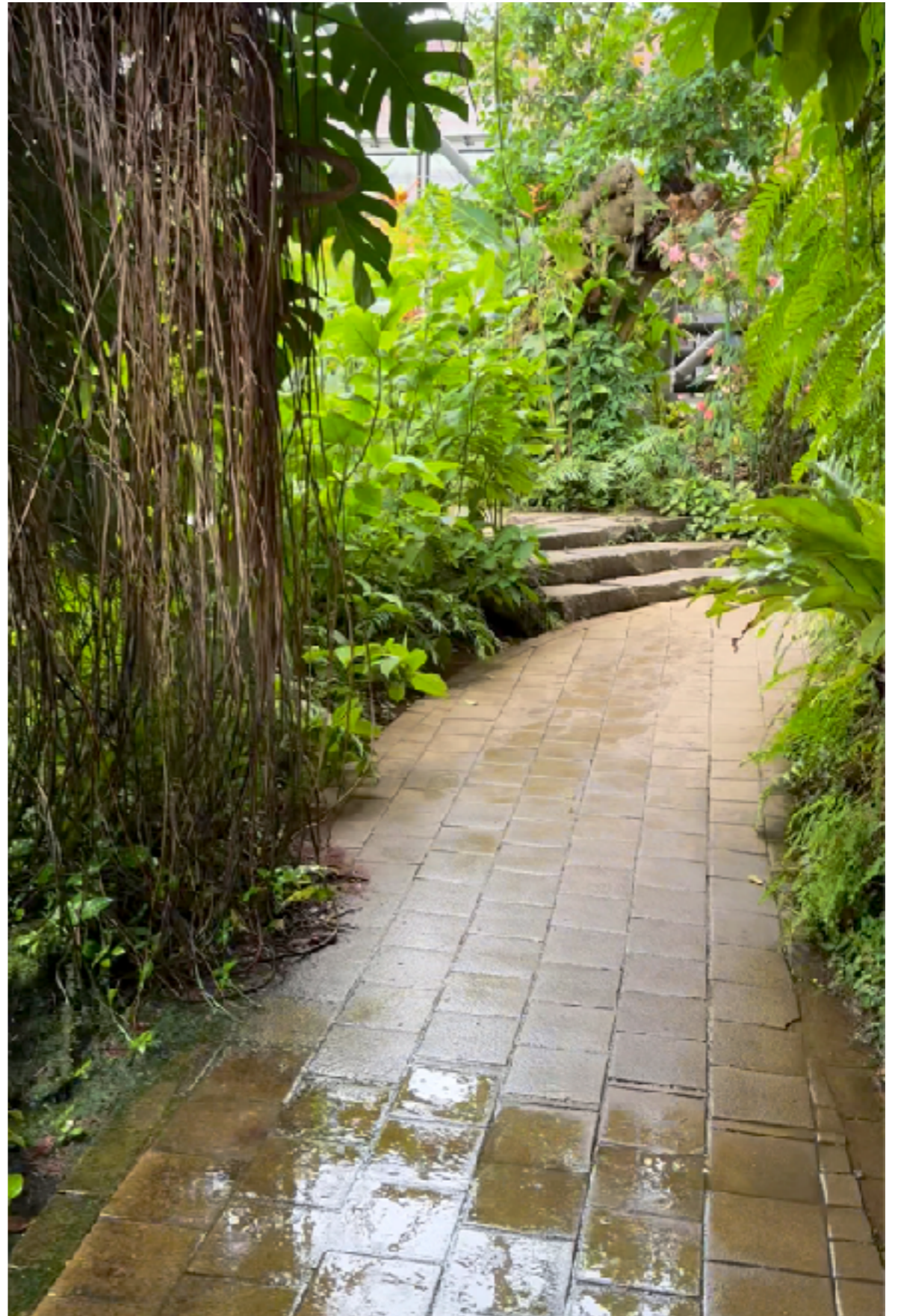


拙作 AEROSCUPTURE (2022)

展示ベニユー候補

	場所	主な理由	想定される展示の形式	料金	
第1候補	夢の島 熱帯植物館	<p>◎湿度温度が完璧（秋～冬は、嗅覚には厳しい時期だが、温室は理想的）</p> <p>○屋内 だがもともと無臭の清潔空間ではない（使用後の問題）</p> <p>○ほどよい密閉空間（換気能力も高い。土の匂いがあるから）</p> <p>○「香り」というテーマが熱帯植物と相性が良い</p> <p>○上田が熱帯住まいのため、熱帯植物やバイオームの匂いを熟知している</p> <p>△アクセスほどほど</p>	<p>・植物の間にミストを流し（賦香するしないはベニユーと相談の上）、風を起こし、ライティングを工夫して、空気の流れを「可視化」する。</p> <p>・人に匂いをまとってもらおう？→嗅覚を惑わす</p> <p>・夜間、照明を落とし気味に？→嗅覚を鋭敏にする</p>	要交渉。理想は、植物館とのコラボイベントとし、場所使用料は無料。香りはおそらく興味を持たれるテーマ。夜間のみでもOK。	
第2候補	TMOF 水と石のプロムナード	<p>○風が程よく吹き抜ける構造→空気の流れを感じやすい</p> <p>△天井あるので、半屋内、悪天候でもギリギリ行ける</p> <p>○アートベニユーなので相性良い</p> <p>△アクセスほどほど</p>	<p>・水に浮かび、風により動く船にミストを搭載（賦香）</p> <p>・人に匂いをまとってもらおう→嗅覚を惑わす</p>	ユニークベニユーとしてレンタルするなら、200万円/全日→コラボイベントにして場所使用料を無料にできないか？夜間のみでもOK。	
第3候補	CCBT	<p>○設置が簡単</p> <p>○屋内だし、いろいろ楽</p> <p>△チャレンジがない???</p> <p>△換気によっては匂いが残留する可能性</p>	小さな透明テントを立て、その中でできること	無料	
第4候補	どこか借りる	<p>✕換気によっては匂いが残留する可能性</p> <p>△観客の誘導が大変</p>	小さな透明テントを立て、その中でできること	有料、1ヶ月	

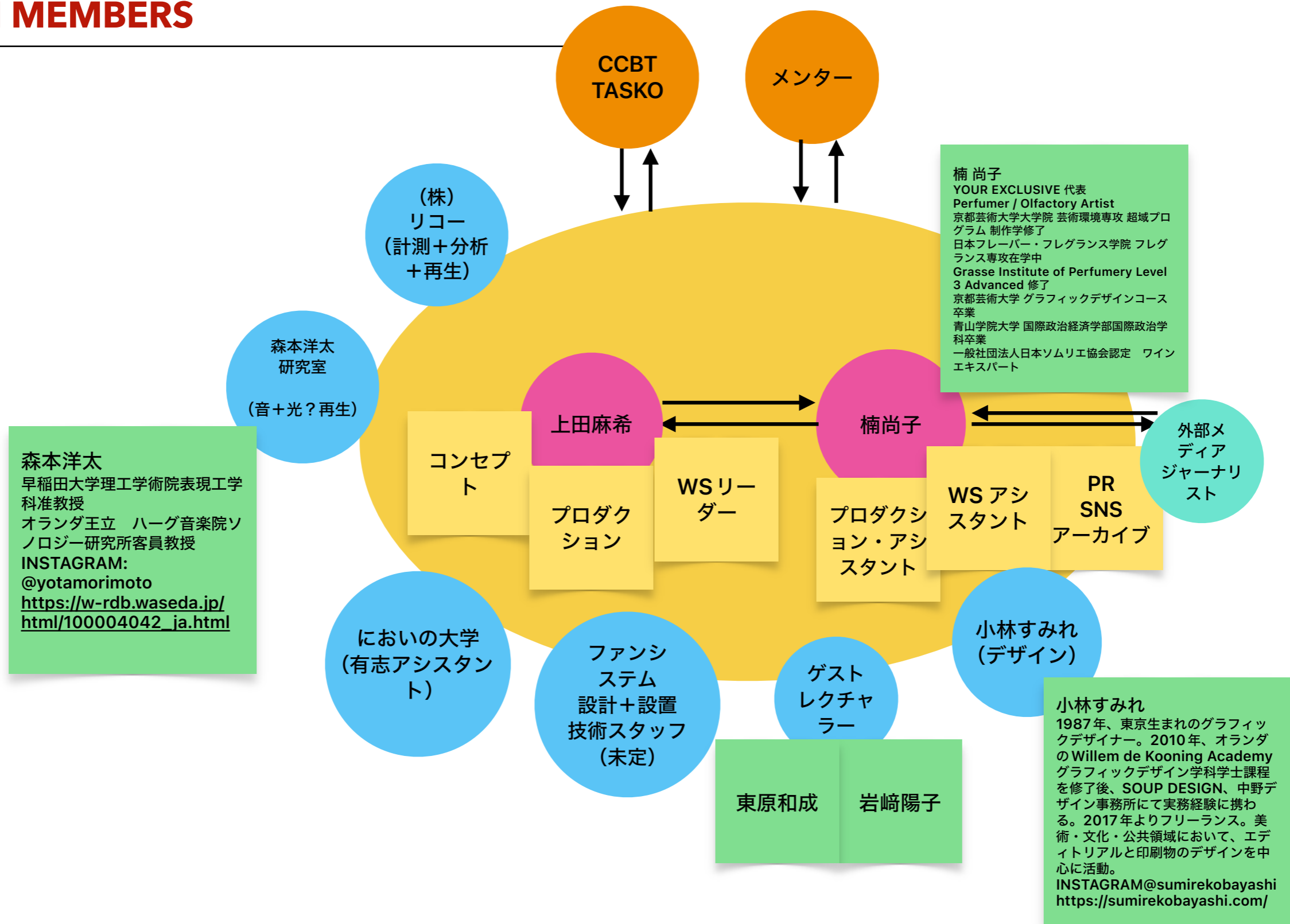




展示の形態や期間についての補足

- ・ ロケハンのビデオ：<https://youtu.be/Se5Xp7oqraE>
- ・ 理想的なのは、ベニユーを借りてやるのではなく、ベニユー側とのコラボイベント。ベニユー側にも興味を持たれること。
- ・ 3日間～5日間の夜間開館(18:00-21:00)、特別イベントといった形もあり。
- ・ 状況がゆるせば常設もあり。
- ・ 機材等のセッティングをその日その日の終わりに撤収する必要があるなら、期間は短めになる
- ・ 7～8月中に候補を絞り、折衝

TEAM MEMBERS



SCHEDULE

イベントを大まかに、3つの「SMELL WEEK（仮称）」に分けます。時期はあくまで予定で、委嘱後に各方面と日程調整します。

- ・ **SMELL WEEK VOL. 1:** 9月末 （次案 10月末）
- ・ **SMELL WEEK VOL. 2:** 11月末
- ・ **SMELL WEEK VOL. 3:** 1月末

最新スケジュールは以下のリンクより参照。

https://docs.google.com/spreadsheets/d/11XJsgrics1Q7fCUATKE_HfYhGxSfaZyG/edit?usp=sharing&ouid=117770386393807832996&rtpof=true&sd=true